



〒892-0841
鹿兒島市照国町13-42
カトリック鹿兒島司教区
電話099 (226) 5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間千共1100円



諸宗教者が平和を祈る集いを開催

東日本大震災を学び被災地のために街頭募金も

鹿兒島県宗教者懇和会主催の「平和の集い」が十月五日(土)午後二時からザビエル教会で開催された。この日の集いには東日本大震災の現状報告会が組み込まれて、懇和会のメンバー三十人だけでなくカトリックの信徒らも参加した。出席者ははじめに、バイオルガン演奏とザビエル聖歌隊の合唱を聞き、次いでカトリックとプロテスタント合同の礼拝式にのぞんだ。司式したのは郡山健次郎司教で、福音朗読と説教を谷山福音教会の阿野敏郎牧師が務めた。次いで「被災地の苦しみを忘れない」



繁華街で街頭募金

をテーマに二〇一一年度から二年にわたり岩手県上閉伊郡大槌町のベース長を務めた古木眞理一神父から東日本大震災の被災状況や今後の課題についての講話を聞いた。古木神父は映像と講話で、被災した当時の苦しみがもたらした生活の苦しみ、希望をなくした人たちの自暴自棄な姿の現実など、現地に赴かなくては感じることでない事実を分かち合った。講演の後は懇和会のメンバーたちは買い物客などで賑わう天文館に足を運び「東日本大震災」のための募金活動を行い、その後ザビエル教会一階ホールで懇親会を開き、宗教者同士がその垣根を越えて人々の心の平和のために知恵を出し合おうと話し合った。

鹿兒島県宗教者懇和会は二〇一一年五月十三日に会員約四十人で発会した。この日承認された「鹿兒島県宗教者懇和会規約」にその目的と狙いが次のように書かれている。
目的
本会は「共に生き、共に和する」を理念として、鹿兒島県内の宗

教者が自主的な立場で集い、交流・親睦を深め、相互理解と協力の輪を広げ、平和への活動を促進する。

- ① 宗教者による平和への祈り・願いを共にする。
- ② 諸宗教間の相互理解を深めるとともに、共通の課題に対して学習を行う。
- ③ よりよい地域社会や世界平和のために共に行動する。

この目的を執行するため毎年一回の総会を四月に開き一年間の行事を決定する。恒例になった行事として

新風

薩摩川内市の出身である私には、幼い頃父に連れられて数回京泊に行った記憶がある。川内川を下る事一時間(今は三十分)、川面の美しさが印象的だった。どうしてそこに行くのかよく分からなかったが父が山の方を指して「あの山の上に教会があつてね」って何か話をしてくれたことを覚えている。いつの時も川内教会では一年に一回必ず京泊訪問を行ってきた。川内教会発祥の地への訪問だけでも十分な意

感謝を込めて解散式

ザビエル教会を文化財として再生させる会

十月十八日(金)夜、ザビエル教会ホールで「ザビエル聖堂を文化財として再生させる会」(森忠親会長)の解散式があつた。一九九八年に解体された第二代「ザビエル教会」は、当時、鹿兒島大学建築学科教授で、玉里教会信徒だった土田充義さんの「後世に残したい建造物」との思いから、復活の場所を求めて来た。そんな思いと共に歩んで来たのがザビエル聖堂を文化財として再生させる会。そんな会が解散に踏み

は、八月頃に「定例懇和会」と銘打ち学習会を開催する

こと。十月頃に「平和の集い」を行うこと。今回のザビエル教会での「平和の集い」が開催された理由は鹿兒島県宗教者懇和会が発足して三年目となり、担当がキリスト教に当たったこと。因みに担当は一年目は神道、二年目は仏教であった。来年度は諸宗教が担当することになっている。(報告・寝占敦之)

誓願宣立50年を祝う

幼きイエズス会 奄美信愛修道院

九月二十三日(月)シヨファイユの幼きイエズス会

夜に屋久島の南岸の恋泊の岩場に上陸する。早速捕えられ江戸へ送られ一七一九年十一月十六日に牢屋敷で死亡している。コンタリ二神父は屋久島のシドッチ神父が上陸した恋泊に教会を建てた。今年も「シドッチ祭」を計画している。一年に一回私たちが集い祈る場所がここにある。日本の信者達のことを命がけて愛した一人の神父のことを心に刻むために、ぜひシドッチ神父が上陸した鋭い岩壁と打ち寄せる波のしづきを見て欲しい。(教区本部・寝占敦之)

ふたりの証し人

レオ税所七右衛門とシドッチ神父

ている。今年の十一月十七日は日曜日、レオ税所七右衛門が殉教した日に当たる。多くの方と一緒に京泊の小高い丘の上に立つてみたいものである。シドッチ神父について

頃種子島にいた。何回も電話で話をした。神父がいかにシドッチ神父を尊敬していたか、そのために人生の最後をささげる決心したかを知らされた。シドッチ神父は一七〇八年十月十日の

旧鹿兒島ザビエル教会献堂式

日時 11月16日(土) 午前10時
場所 カトリック福岡黙想の家
宗教法人 カトリック御受難修道会
福岡県宗像市名残一〇五六の一

名瀬信愛修道院チャペルで誓願宣立五十年(金祝)を迎えた二人のシスターのためのミサがささげられた。修道生活五十年を迎えたのは奄美出身のシスター押川リンコとシスター當喜久江の二人の修道女。これまで誓願宣立二十五年、五十年、六十年の記念のミサを本部修道院でささげてきた同会であったが、今年から各支部でささげるようになった。この日の感謝のミサは永山幸弘神父の司式でささげられ、ミサ後は二人のシスターたちの親族も囲んで振る舞いが催された。(名瀬聖心教会広報委員会)



司祭の消息

松森孝郎神父(教区本部)は、骨折で入院していたが十月二十五日退院し、奄美市名瀬西仲勝の特老「めぐみの園」(南谷豊子施設長)に入所した。

瀬留教会の創立者

ブイジュ神父様の故郷を訪ねて

瀬留教会 栄 ハル

一九〇三年(明治三十六年)、フランス人の宣教師レオン・ブイジュ神父(パリ外国宣教会)が瀬留教会に着任し、一九〇八年に教会を建設されました。教会は百五年を経過した今でも堅固で、二〇〇八年には文化庁から「登録有形文化財」の指定を受けました。

ブイジュ神父はこの地をこよなく愛し、宣教活動はもとより地域の人々の生活と文化の向上に尽力されました。しかし一九二二年に病に冒され、母親から帰国を促される手紙を受け取りながら「神の召命に忠実であるためにすべてを神の摂理に委ねます」と返事を送り、瀬留で五十四年の生涯を終え、この地の共同墓地に埋葬されました。瀬留教会では、そんな神父を偲び、功績を讃えて毎年、命日の七月二十二日に奄美の司祭方と信徒、また集落の方々にも呼びかけて墓参し感謝の祈りをささげていま



ブイジュ神父様の先祖の墓の前で

す(今年で九十一回目となりました)。瀬留教会では「師の故郷を訪ねて感謝の意を伝え、将来的には国際親善の輪を広げて行きたい」という趣旨のもと、三年前から当時の主任司祭柄尾神父様とともにブイジュ神父の故郷(アーリエ県エネイ・ル・シャトール)を訪れる巡礼を企画し準備してきました。参加者は八十歳以上の方三人と視覚障害者一人、幼児一人を含む信徒二十人。これに郡山司教様と柄尾神父様が加わり、総勢二十二人の巡礼団となりました。車いすを三台用意し、それぞれの家族が付き添い、全員で助け合う家族的なグループで九月十九日から二十五日までフランスを巡ったのです。

福岡空港を出発して仁川空港を経由し、シャルルドゴール空港まで約十三時間半の長いフライト。全員が無事に地上に降り立った時は大きな喜びを感じました。そして休暇で本部に帰っておられたパリ外国宣教会のオリビエ・シユガレ日本管区長と通訳の権津シリルさんが出迎えて下さって、いよいよ巡礼の始まりです。バスに乗り込み、最初に訪れたのはパリ外国宣教会の本部。ブイジュ神父が学んだ神学校があり、神父が使った部屋や廊下、聖堂などを見学できました。聖堂にはここで学んだ宣教師が各国へ派遣される際に司教様の祝福を受け、家族に永遠の別れを告げる場面を描いた壁画がありました。それを見てみると神父様方の宣教師が培われた瞬間に出合えたような思いがしました。次にヌヴェール修道院を訪ね、サン・ジルダール修道院で没後百三十四年目のベルナデッタのご遺体を見ながら、神様のわざの偉大さを黙想させて頂きました。

その次に訪れたシヨファイユの幼きイエズス会の修道院では、故シスター嘉倫子(秋名出身)の足跡を辿り、巡礼団の一員でもあるお母様と弟さんのお気持ちをお察ししつつ、全員でご冥福をお祈りしました。翌(九月二十二日)の早朝、エネイ・ル・シャトールに向けて出発しました。広大な牧草地や白牛牧場、ヤギ牧場を眺めながら三時間半かけて到着すると、たくさんの方々が出迎えて下さいました。それは村長さんや町の有志の方々、司教代理の神父様と主任神父様、そして信徒の方々でした。お互いの紹介が済むと主任神父様からは「この町のブイジュ宣教師が日本の奄美大島の瀬留で、このように大切にされているのはこの町の喜び」と、また村長さんからは「この巡礼を通して姉妹都市に発展させて行きたい」とのお言葉を頂き、とても感動しました。その後、教会で歓迎と感謝のミサがささげられました。ミサの説教を担当された郡山司教様が、司教様のおじいさまから聞いたというブイジュ神父様の瀬留での生活の様子を心を込めて語られると、参列されていた地元信者さんたちが大変喜ばれました。ミサ後には、ブイジュ神父が受洗された時にも使われたという洗礼盤が紹介され、これが歴史ある古い教会であることがひしひしと伝わりました。

その後は、地元の方々の手作り料理とワインやヤギのチーズを頂きながら懇親語に代えて表記する方法のことです。たとえばAを100、Bを101として、アルファベットの順に1ずつ数を足していけばZは125になります。この法則(ルネサンス)も皇帝ナポレオン(Le Empereur Napoleon)もゲマトリア表記により666になりました。さて、ヨハネの黙示録の666とはキリスト教徒を

会が催されました。言葉は通じませんが、なぜか心が打ち解けてとても楽しいひとときとなりました。懇親会の終わりに私たちが用意して来た曲を流して島の踊りを一緒に踊って盛り上がりしました。その後はブイジュ神父様のご先祖の墓参りと住居跡を見学し、趣のある古い町並みを案内して頂きました。そして夕暮れ迫る頃、お互いに「また、お会いしましょう。メルシー・ボク(ありがとうございました)」

大迫害した皇帝ネロを表している、と言われています。皇帝ネロを英語のアルファベットで表記するとNRW(OX)NKSRとなり、す。そして、この時代のヘブライ語のゲマトリアを使うとNは50、Rは200、(OX)「W」は6、Nは50、Kは100、Sは60、Rは200という数字を持つていますので合計が666となります。つまり、666とは恐ろしい数字でも不吉な数でもないのです。因みに、ある遺跡から発見されたギリシア語による最

「大口明子」さんが誕生してはや十年となりました。そして九月二十二日(日)にあつたバザーでも大人気でした。大口明子さんは鹿児島支部の後援会、育成会、卒業生の協力によって、これまでに百二十体が誕生しました。毎週金曜日の製作作業には色々な方が協力して下さっています。一針、一針に心を込めて縫い上げた人形です。時にはロザリオを

巡礼団はこの他にブルージュのサンテイエヌ大聖堂などを巡り、建築物の素晴らしさ、ステンドグラスの美しさ、彫刻の迫力に魅了され、そのすべてが人間の技を超えていることに感動しながらカトリック教会の歴史の重みを肌で感じることができました。そ

して同時に神様が共にいて下さること、常に恵みを注いでいて下さることも実感しました。この巡礼が瀬留小教区の共同体に実り豊かな恵みとなりますように。そして将来、エネイ・ル・シャトールと瀬留が友好都市として発展して行くように願っています。最後にりましたが、巡礼を支えて下さった多くの皆さんに感謝したいと思います。ありがとうございます。

キツペス神父の黙想会 イエズスに近づいて 12月14日(土)10時 ~15日(日)16時 場所: マリア山荘 参加費: 10,000円 申込: 福沢智子 TEL0993-78-4945

古のヨハネの黙示録の紙片(三世紀頃)では、この箇所は616になっていました。この場合は前々代の皇帝カリグラを意味していると言われていますが、666が正しいのか616が正しいのか、という議論の決着はまだついていないようです。このゲマトリアを踏まえるとマタイ福音書の冒頭にあるイエス様の系図の意味が理解できます。今回はこの系図から福音記者マタイが言わんとしていることを考えて見たいと思います。

ワールドユースデー参加して

瀬留教会 励 由理子

今回初めて、ワールドユースデーに参加させていただきました。

参加動機は、何度かあったワールドユースデーになかなか参加できず、年齢的に最後でもあり、またブラジルでの開催で「仕事を辞めてでも行け！」と、ごり押しした。はじめ親戚の勧めでした。

大会中は、どこへ行っても現地の方々の過大な歓迎を受け、他の国の方々から「ジャパン！」と何度も笑顔で呼びかけられたり、日本巡礼団での分かち合い、教皇ミサなど貴重な経験をさせて頂きました。

サンパウロでは、中村長八神父様の紹介があり、ブラジルでの活動を詳しく知ることができました。また、奄美とサンパウロで中村神父様への祈りがささげられていることに感動しました。

今回のテーマは「行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい」です。他の参加者の方々がアニメーションの準備をしてくださり、加わりやすかったです。

「宣教する」と、問われた時、世界の若者の信仰を、私には難しいと感じていました。しかしカテケージスを受けて亡き祖母の毎朝ミサに行く小さな背中を見て、こういう風に生きられたら良いなと感じたことを思い出し、宣教つてこれなのかと胸のつかえがとれたような気がしました。

私の信仰・社会生活は「喜び、希望、感謝」がまだまだ足りず、「私の背中では宣教はまだまだ」と痛感させられました。帰国して姪が受洗し、偶然にもカテドラルでの洗礼式にあずかることができ、希望を頂けることができたのも恵

みかと思えます。この大会参加には、多くの方々のご厚意を頂きました。職場の方々には多大な

24 kmを歩く

青年主催伊集院巡礼

聖ミカエルの祝日にあたる九月二十九日(日)、聖フランシスコ・ザビエルの足跡をたどる伊集院巡礼が青年会主催で行われました。早朝七時の出発にもかかわらず、出発地のザビエル教会には二十人ほどの人々が集まって下さり、本当に嬉しかったです。皆で祈りをささげた後、準備体操をしてから約二十四キロの長い道のりを歩き始めました。

天気予報では雨のち曇りというところで、道中雨がぱらつきましたが、次第に天候が回復して歩きやすくなりました。歩きながらお互いに自己紹介をしたり、讃美歌を口ずさんだり、一人で歩きながら祈ったりと、巡礼の醍醐味を味わいました。また、一昨年の巡礼から取り入れたロザリオの祈りも、休憩場所ごとに参加者の方々に先唱をして頂きながら「東日本大震災被災者のための祈り」と共に、心を一つにして下さることができました。

手作り冊子で「ザビエル街道」を紹介

玉里善き牧者幼稚園 藏元 修 園長

この夏(七月二十五日、二十六日)鹿兒島市で開催された日本カトリック幼稚園連盟主催「教職員研修大会」には、全国から七百人を超える関係者が出席し、「キリスト教伝来の歴史に学び、自然と共に生き抜く力を育てる―輝く未来に希望と笑顔を―」をテーマに熱心な学習が行われた。

大会運営には鹿兒島県内のカトリック幼稚園のスタッフが全力で協力し、大会

を成功に導いた。そんな大勢のスタッフたちの中でひと味違う「おもてなし」に東奔西走したのは、二百六十人あまりの園児をあずかる玉里善き牧者幼稚園の藏元修園長。



元修園長。全国から鹿兒島に駆けつける同じ志で子どもたちと接する教職員たちに、大会のテーマをより深く理解してもらおうとザビエルと鹿兒島の教会の歴史を記した「ザビエル歴史街道」を作り出したのである。このA四サイズ、十八頁にわたる資料には、祇園之

洲から始まったザビエルの宣教の足跡を一つひとつ、自分で史跡を辿り写真と文章で紹介している。まさに血と汗の結晶である。そんな藏元園長は、「教員時代の赴任先にザビエルが足を運んだ地域が幾つかあった。不思議な縁を感じている」と資料づくりを楽しんでいた様子。お会いしたザビエル祭当日も、麦藁帽子をちょこんとがぶり、研修大会スタッフのポロシャツというかわいらしい姿で、笑顔を振りまきながら祇園之洲からザビエル教会までの徒歩巡礼の中にいた。

**+KABAYAN SEKSIYON+
Sagana sa Awa**

Sumulat si Papa Juan Pablo II ng labing-apat na mga ensikliko; tatlo nito ay nakatuon sa bawat persona ng Isangtatlo: Ama, Anak at Espiritu Santo. Ang Dives in Misericordia (Sagana sa Awa) ay nakatuon sa "Ama ng mga kaawaan at Diyos ng buong kaaliwan" (2 Cor 1:3). Walang duda na ang Diyos natin ay "sagana sa awa" (Ef 2:4).

Ang ensikliko na ito (1980) ay isang "taus-puso" Ng panawagan ng Simbahan tungo sa pagkahab-ag, na sadyang kailangan ng sangtinakpan at ng mga tao sa makabagong panahon" (2). Ipinahayag ng Papa na "kailangang ituring ng Simbahan na isa sa kanyang pangunahing tungkulin-sa bawat yugto ng kasaysayan at lalo na sa makabagong panahon—na ipahayag at gawing bahagi ng buhay ang hiwaga ng awa"(14).

Sa panahong mawala sa daigdig ang diwa ng dakilang awa ng Diyos, "lalo't higit na karapatan at tungkulin ng Simbahan na magpatulong sa Diyos ng awa" (15). Sa pagsasabuhay ng ating pananampalataya, kailangan nating tularan nang tapat ang awa ng Ama.

Isang huling tanong na pampukaw sa ating diwa: Ano ang isusulat ng mga salita sa iyong puntod? Anong ganda kung ang isusulat ay magsasaad ng noong ika'y nabubuhay, ika'y palaging "sagana sa awa"!

Isang bagay na hindi makakalimutan ng mga taong nakakaranas ng "saganang awa ng Diyos" sa kanilang buhay. Ito'y magsisilbing patotoo na talagang ang Diyos na nasa Langit ay punong-puno ng awa sa kanyang mga nilikha, tayo. Kung gayon, tayong mga nakaranas nitong "saganang awa" ng Diyos, kailangan din ang bawat isa sa atin ay gayundin ang dapat gawin sa ating kapwa. Para sa pagdating ng panahon, kung tayoy aalis na sa mundong ibabaw, ay hindi makakalimutan ng mga tao ang "saganang awa" na naipadama natin. At ang lahat ay mapupunuan ng tunay na ligaya.

Katesismo sa Taon ng Pananampalataya (Fr. Dino Orolfo)



持ちで一杯です。次回は、ポーランドで行われますが信仰に自信が持てる体験ができると思います。日程・費用など大変難しい現状ですが、ぜひ鹿兒島教区から一人でも多くの若者が参加できるように教区の皆様方と一緒に協力とお祈りをお願いいたします。

日	月	日	内容	
1日	(金)	2日	(土)	諸聖人 死者の日
2日	(土)	3日	(日)	カトリック唐湊墓地ミサ・10時 宣教学校・教区本部・10時
3日	(日)	9日	(土)	年間第三十一主日 ラテラン教会の献堂
9日	(土)	10日	(日)	メニヒ神父霊名(聖テヨドル) 年間第三十二主日
10日	(日)	16日	(土)	ガブリエル神父命日(一九七八年) 共同墓参・奄美カトリック納骨堂前・11時 ザビエル聖堂献堂記念ミサ・福岡黙想の家・10時
16日	(土)	17日	(日)	年間第三十三主日 10時
17日	(日)	18日	(月)	福者レオ税所七右衛門殉教祭・川内教会及び京泊教会跡地・13時 パードレレピオの集い・ザビエル教会・12時 聖書週間・24日まで
18日	(月)	19日	(火)	パードレレピオの集い・名瀬聖心教会・12時 レネンブートル会例会
19日	(火)	20日	(水)	奄美例会 三木巖神父命日(二〇〇〇年)
20日	(水)	23日	(土)	シドッチ祭・屋久島教会 王であるキリスト
23日	(土)	24日	(日)	聖アンデレ使徒 ME鹿兒島・教区本部・13時30分
24日	(日)	30日	(土)	

祈りの意向
【ノベナ】「信仰年開幕」に向けて、主日のミサを中心とした信仰生活のために(16日、24日)

【祈祷の使徒会】
宣 教・ラテンアメリカの教会
日本の教会・「信仰年」の実り

1 「朝鮮のキリスト教伝来」をめぐる、もう一つの資料

朝鮮のキリスト教伝来は一般に一七八四年に北京に李承薫（一七五六～一八〇一）が赴き、洗礼をフランス人ジャン・グラモン神父（イエズス会）から受けたのが始まりとされています。

しかし、もう一つの資料もあるのです。それは、太閤秀吉が始めた朝鮮との戦（一五九二～一五九七）の戦役（一五九七）において、「慶長の役」において、小西行長などのキリシタン大名と共に、イエズス会の宣教師が従軍司祭として赴き、日本人信者の司牧と朝鮮人に布教したという資料です。これは、イエズス会側の資料に記載されており、有名なフロイスの『日本史』にも、記載されています。イエズス会日本準管区長ペドロ・ゴメスがグレゴリオ・セスペデスを日本人修道士ハンカン・レオン（日本人。元僧侶）と共に一五九三年朝鮮に派遣したのです。これが朝鮮におけるキリスト教開始の時と言われています。

ローマ本部にあるイエズス会歴史研究所のホアン・ルイズデメディナ神父（一九二七～二〇〇〇）も、『イエズス会文書館所蔵・中国・日本の部』をもとに著した『日本殉教録』において同様の指摘をしています。しかし、朝鮮側はこの資料を採用していません。

一八六七年、ローマにおいて「日本二〇五殉教者」が列福されましたが、このうちの九人は、朝鮮出身者と言われています。一五九四年には二千人以上

上の朝鮮出身者が日本で洗礼を受け、一六〇一年には長崎に最初の朝鮮人教会が建てられたのです。しかし、徳川幕府の禁教令によって一六二〇年に取り壊されたと言われています。このことについては、別の機会にもう一度、詳しくお話ししたいと思います。

この時代に朝鮮から連れて来られ、小西行長の養女となった「おたあジュリア」のことも、ルイズデメディナ神父は言及しておられます。彼は韓国教会の誕生は、一五九二～三年頃と説明し、一六二〇年代にキリシタンとなった朝鮮人は故国に帰ってキリシタンの信仰を保持していたのではないかと推定しているのです。

キリシタンの歴史⑬

朝鮮のキリシタン史（2）

溝辺教会主任司祭 坂本 進

しかし二〇〇一年、上智大学で開催された講演会で、ソウル大学の李元淳教授は「このことは、日本切支丹史の範疇に属するものであり、朝鮮教会史に属するものではない」と述べられています。

2 韓国のキリスト教の歩み

一八三九年の「己亥（キヘ）教難」以後、キリシタンは国教である儒教の教えに反するものとされ、迫害を受けるようになりまし

た。しかし一八八〇年代に欧米諸国の朝鮮進出とあいまってカトリック、プロテスタント教会は共に発展・成長期を迎え、一九〇七年には、平壤に於いて始まった

た信仰覚醒（リバイバル）が全朝鮮に広がるに至ったのです。カトリックも、パリ・ミッシェンのムーテル司教が赴任したことにより、韓国カトリック教会の近代化と土着化が推進されていくようになりまし

た。ソウルの明洞聖堂の建設も、彼によってなされたのです。しかし一九三〇年代、日本による植民地政策により、キリスト教は再び弾圧されていくようになっていきました。

一九四五年、アメリカにより日本から独立した朝鮮のキリスト教会は信仰復興の時を迎えるようになりまし

た。連合国司令官マッカーサー元帥は、キリスト教布教の推進に力を注ぎ、最

初の大統領に、キリスト信者・李承晩（一九四八～一九六〇在任）を任命。以後、朴正熙（一九六一～一九七九在任）により政権掌握。一九六三～一九七九在任。一九七九年に暗殺される）を除き、金大中（一九八二～二〇〇三年在任）、現大統領朴槿恵（朴正熙の娘・カトリック。二〇一三）をはじめ、ほとんどの大統領がキリスト者で占められるようになりまし

た。キリスト教は、独立後の韓国にとつて、国家宗教となつてい

ると言えるのです。文鮮明は二〇一二年九月三日、九十二歳で韓国において死去しました。カトリック、プロテスタント諸教会は、みなさんご存じの通り統一教会をキリスト教ではないと統一見解を出して

います。文鮮明は自身を「再臨のキリスト」「救い主」と宣

言し、一九五四年に統一教会を創立。政治的団体「勝共連合」も創立しました。日本ではマイン

ド・コントロール、靈感商

法などマスコミを賑わわせました。韓国では統一教会と文鮮明のことは、ほとんど話題にのぼっていない

です。けだし一時期であったにせよ統一教会とオウム真理教に「なぜ、若者が魅かれ、入信していったのか」そのことについては、もつと考

えてみる必要があるように、思うのです。

日本においてもキリスト者であった内村鑑三が、政府の圧力を恐れず政府の国策である日露戦争を批判し、反戦を唱えることにより、社会的評価を得るようになったのと近似しています。

明洞聖堂は、旧約聖書時代の「逃れの地」のように、ここに駆け込んだ政治犯罪者を匿まうことで知られて

いました。一九八七年全斗煥政権は「民主化を要求した学生たちを引き渡すよ

う」明洞聖堂に立ち入り、警察隊を一堂させたのです。この時、応対に出た金枢機卿は「彼らを逮捕し処罰するならば、まず私から先に逮捕して処罰せよ」と言い、警察隊の前に立ちま

り、一歩も引かなかったそうです。自分が殺されようとも、銃をかまえた英国軍隊の前に立ちま

り、一歩も引かなかったそうです。自分が殺されようとも、銃をかまえた英国軍隊の前に立ちま

り、一歩も引かなかったそうです。自分が殺されようとも、銃をかまえた英国軍隊の前に立ちま

文芸

俳句

鹿兒島純心 川上 和
被災地のコスモスゆれて
人招く

出水教会 沖 弘子
ロザリオを唱ふ窓辺の月
明かり

国分教会 政 ノブ子
信仰年祈りは永久にぶど
うの木

持ちよりて司祭を祝う秋
一日

純心学園 山頭 信子
大空に詩編讃歌はノビス
たち

しだれ萩シモンの助け第
五留

つき草を画用紙につけス
ケツチナ

吉野教会 徳永ノブ子
マリア像リンドウ活けて
野の花も

短歌

鐘が鳴るミサの始まり秋
ひと日
さわやかに日々を過ごし
てありがたき

鴨池教会 前田 儀子
幸福の木枝をコップの水
にさし祭壇に置く吉事の
来そうで

ルオーの絵のミゼレーレ
の澄める色暗く明るく神
住みをらむ

出水教会 遠竹 睦郎
身代りとなりて神に召さ
れしコルベ神父の長崎の
修道院を皆と訪ねぬ

前科ある人とも共に働き
し会社社長を偲ぶ秋の日

鹿兒島純心 川上 和
パパ様の笑顔呼びかけ祈
りの環ロザリオつなぐ平
和な世界へ